

CO-OP（コアップ） 講習会のお知らせ

日時：【対 面】2023年9月16日（土）、17日（日）8時30分～17時
【遠 隔】2024年3月16日（土）または17日（日）9時～12時30分（どちらかの日程に参加）
場所：【対 面】県立広島大学 保健福祉学部（三原市学園町1-1）4101教室
【遠 隔】Zoom
講師：ヘレン・ポラタイコ Helene Polatajko（CO-OP 開発者，トロント大学名誉教授）
ローズ・マルティニ Rose Martini（CO-OP インストラクター，オタワ大学教授）
塩津 裕康（CO-OP インストラクター，中部大学講師）
参加費：30,000 円 問合せ先：吉川ひろみ yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp

CO-OP（コアップ）とは

日常作業遂行に対する認知オリエンテーション（Cognitive Orientation to daily Occupational Performance）の略で、運動が上手にできない人のための治療法です。発達障害から脳卒中まで、各個人の目標を達成するために認知技能を使って、個別に計画していくアプローチです。文字を書いたり、自転車に乗ったり、といった日常の活動を行うために、当事者が自分でうまいやり方を発見していけるようにする方法で、国際的に効果が認められています。タイミングよく正しい方法が与えられれば、様々な技能を習得することができるのです。

CO-OP が生まれた背景

1. 人は自分で目標に到達したとき、もっとも学習し成長します。CO-OP は、自分で発見することに着目して、できるようにする個別のアプローチです。
2. 家族も治療者も効果的な方法を求めています。遂行が改善するという効果が証明されている方法が必要なのです。
3. 管理者はエビデンスに基づいた効率的で経済的な方法を求めています。クライアントもスタッフも、実際に役立つ方法を必要としているのです。
4. 現代科学の運動学習理論では、活動を遂行が成功するための人と環境と課題の相互関係を重視しています。CO-OP は現代科学の進歩の上に考案されたものです。

CO-OP の目的

CO-OP の目的は、日常の活動の遂行において身体の協調性や運動コントロールが困難な人が、自分の遂行の問題を語ることで、自分で解決法を発見して、できるようになっていくことです。技能の獲得、認知戦略の発達、学習の一般化と転移を目指した言語的なアプローチです。

CO-OP を学びたい人は

CO-OP を実践するためには、運動技能の遂行の問題をもつ子どもや成人を対象としているセラピストが、CO OP の概念、背景となる理論を学ぶ必要があります。作業療法士や理学療法士が、資格のある指導者から正式な CO OP 講習会を受講しなければなりません。

CO-OP を使うセラピストは、クライアント中心の哲学をもち、障害者の理解者であり、子どもを対象としているなら、子どもの行動に対応でき、効果的なコミュニケーション技能をもち、活動分析の技能をもち、家族と一緒に取り組んでいく意志をもち、カナダ作業遂行測定（COPM）をうまく使える人であることが推奨されます。

参考資料

ヘレン・ポラタイコ，アンジェラ・マンディッチ（塩津裕康，岩永竜一郎監訳）：子どもの「できた！」を支援する CO-OP アプローチ，金子書房，2023（原著 Polatajko, H. J., & Mandich, A.: Enabling occupation in children: The Cognitive Orientation to daily Occupational Performance (CO-OP) approach. Ottawa, ON: CAOT, 2004）

塩津裕康：子どもと作戦会議 CO-OP アプローチ入門. クリエイツかもがわ，2021